

姿勢の崩れが気になる皆様へ

Lee 製作室

姿勢の崩れを大まかに言えば、①骨盤が上手く保持できない。②体幹が上手く保持できない。③頭部が上手く保持できない。だと思います。ここでちょっと想像して見て下さい。

お子様を2人がかりで、一人は骨盤を両手でしっかりと押さえます。もう一人は、お子様の両脇を支え上げるようにサポートして下さい。この状態で、姿勢の崩れは問題になるでしょうか？これで問題がないと思えるのなら、これからのご提案はきっと姿勢でお悩みの皆様のお役に立てると思います。

骨盤保持は「クロスYベルト」

姿勢保持を考える時、まず骨盤の安定は基本です。でも意外と難しいのが骨盤保持です。クロスYベルトは、腰部から大腿部ベルトまでが一体となったシート部と、腰部ベルトで構成されています。そして、二俣に分かれた大腿部ベルトと腰部ベルトをバックルで固定して、前ズレを防ぐ骨盤保持用具です。

クロスYベルトのサプライズ

クロスYベルト一本あれば、車いすは勿論飛行機・レストラン・食卓の椅子・友達の車、なんだって座れます。その上、取り付けはバックル止めのワンタッチです。その安定感を、是非お試しください。

使用例



固定ベルトが落ちないように工夫する。(結束バンドは手軽です)



固定ベルトと背面に隙間が出る場合は、やや上部から引き上げるようにセットすると有効です。



固定ベルトを、少し上部にセットする。



座位保持装置に付ける場合は、オーダーで対応します。(長さや、ベルクロの位置など)

抱クッションは、体幹保持用具です。

重い障がいを持つ利用者の方は、その時々体調によって姿勢も大きく変化します。特に強い緊張が入ったりすると、背面や側面の支持ではなかなか対処出来ません。

そんな時、前方から両手で脇を支えてみて下さい。これなら、いくら角度を起こしても、たとえ想定外の緊張が入っても難なく支えることが出来るでしょう。

このサポートが出来るのが、抱クッションなのです。

抱クッションの名称は、脇を抱き上げるようにサポートする機能をそのまま名前にしました。勿論、どの様にご使用頂いてもいいのですが、体幹保持具として一番効果的な使用方は、抱クッションの両端の細くなっている部分を、両肩の後ろに沿わせて上部に軽く引き上げるようにご使用頂くことです。

(両脇を支え上げるイメージ)

効果

- 脇を支え上げるようにサポートするので、姿勢が崩れにくく、体重を胸部・上腕全体で支えるので、部分的に負荷が掛かりません。
- 上腕部が抱クッションの上に乗ることで、腕が支えられ体幹が安定し呼吸も楽になります。
- 体幹が安定しているので車いすの角度を思い切って起こせます。
- 自家用のカーシートの補助具としてだけでなく、飛行機などの公共交通機関でも幅広く使用できます。寝かした時の枕代わりに使用できます。 などなど。

使用例



両肩に添わせるように上に引き上げる。



倒れ込みを防ぎたい場合は、逆方向に引っ張る。クッションの厚い部分でサポートする。



上部にセッティングできない場合は押し手に巻きつけるようにセッティングする。